人権啓発コンサート

～津軽三味線の音色を歴史と共に～

津軽の響き

感謝の心で奏でる

来世楽（ラセラ）

京極流師範代の腕前を持つ
実力派女性津軽三味線ユニット

小学校の頃より同じ京極流で三味線と民謡を学んでいた「あつこ」と「ゆか」が、自分達の学んできた津軽三味線や民謡といった純邦楽を新しいスタイルで表現をして、若い人達にも純邦楽の良さを知ってもらおうと、２００１年に、女性津軽三味線ユニット『来世楽』（ラセラ）を結成。同年より民謡大会等で活動を始め、各地で好評を得る。両名とも京極流師範代の腕前を持つ実力派で、津軽三味線と民謡の楽曲のみならずオリジナル曲や、沖縄民謡を邦楽風にアレンジするなど、幅広い活動を行っている。

日　時　2018年 2月12日（月・祝）　開場／13：00　開演／13：30

会　場　海南文化村 文化館ホール

主催／海陽町人権教育協議会　後援／海陽町教育委員会・海陽町

お問合せ　海南文化館　TEL.0884-73-3100　海部郡海陽町四方原字杉谷73

全席自由
入場料無料

来　世　楽　（ラセラ）

《左：京極あつこプロフィール》
［経歴］大阪生まれ　1980 年 京極民謡教室入門　1993 年 立ち弾き三味線グループ〝サウンド響〟結成　1994 年 津軽三味線全国大会グループ優勝（サウンド響）師範代取得　1999 年 コロムビアレコードより「北埼盆唄」でデビュー　2001 年 女性津軽三味線ユニット〝来世楽～ラセラ～〟結成
［受賞歴］1989 年 紅白民謡大会（東京中野サンプラザ）優勝　1996 年 日本民謡ヤングフェスティバル 優秀賞　1998 年 日本民謡ヤングフェスティバル優秀賞

《右：京極ゆかプロフィール》
［経歴］大阪生まれ　10 才の頃より津軽三味線を習い始める　1993 年 立ち弾き三味線グループ〝サウンド響〟結成　1994 年 津軽三味線全国大会グループ優勝（サウンド響）　1999 年 師範代取得　2001 年 女性津軽三味線ユニット〝来世楽～ラセラ～〟結成

津軽三味線の歴史について

津軽三味線の始祖は青森県北津軽の『仁太坊』（1857～1928）と言われています。明治のはじめ、それまで地味な門付け芸だった三味線音楽に革新的な奏法を取り入れ、津軽三味線の原型を築きました。彼は八歳の時に疱瘡にかかり生死をさまよい、失明してしまいます。生きて行く為に彼は門付けをし、その日の糧を求め一人三味線を弾き歩きました。

津軽において男性視覚障害者の門付け芸人は坊様（ボサマ）と言われ長く社会から差別を受けていました。そんな中から叩き奏法を自ら編み出し、オリジナルな三味線芸を確立していきます。

時代がくだり、津軽三味線は梅田豊月（ほうげつ）、白川軍八郎（弟子に三橋美智也がいる）は、木田林松栄（きだりんしょうえ）、高橋竹山（ちくざん）らの名人を生み出しました。

仁太坊の流れを引き継いだボサマ達、彼らの多くは疱瘡や麻疹などで失明をしてしまい、まだ少年である彼らのほとんどが家族から絶縁され、米俵などを師匠に納め弟子入りして修業、独立し、生きる為に一人放浪しながら三味線を弾き歩きました。

このように津軽地方の三味線は他の三味線音楽とは全く異質な音楽として発達を遂げます。逆境から生まれた魂の叫ぶような音は現代人の心を打ちます。昨今の津軽三味線の普及の根底には、ボサマ達の門付け精神、ハングリー精神によって紡ぎだされた音があると言えます。